

平成 28 年度第 1 回大磯町総合教育会議 議事録

1. 日 時 平成 28 年 8 月 23 日 (火)
開会時間 午前 10 時 00 分
閉会時間 午前 11 時 40 分
2. 場 所 大磯町役場本庁舎 4 階第 1 会議室
3. 構成員 中 崎 久 雄 町長
藤 家 崇 教育長
中 野 泉 教育長職務代理
青 山 啓 子 教育委員
曾 田 成 則 教育委員
瀨 名 三代子 教育委員
4. 事務局 森 田 敏 幾 参事 (地域総合戦略担当)
藤 本 道 成 政策課長
小 林 琢 哉 政策課政策係長
岩 本 清 嗣 教育部長
小 島 昇 学校教育課長
山 口 友紀子 学校教育課副課長兼教育指導係長
5. 傍聴人 10 人
6. 議 題
協議事項
(1) 信頼関係による学校づくりの実現について

7. 会議概要

【開会】

政策係長) ただ今から、平成 28 年度第 1 回大磯町総合教育会議を始めさせていただきます。

本日の司会を務めさせていただきます、政策総務部政策課の小林でございます。よろしくお願いたします。本日の総合教育会議は、「公開」での開催となります。傍聴を希望される方が会場に入っておられますので、委員の皆さんにおかれましては、あらかじめご了承承願いたします。

それでは、始めに、中崎町長からご挨拶申し上げます。中崎町長、よろしくお願いたします。

【中崎町長挨拶】

町長) 本日は、ご多忙のところ、平成 28 年度第 1 回「大磯町総合教育会議」に出席いただき、ありがとうございます。会議に先立ちまして、一言、ご挨拶させていただきます。

昨年 4 月 1 日から「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、新たな教育委員会制度がスタートしました。大磯町においても、法の趣旨に則り、私が議長となり、お集まりの皆さんを構成員とする「総合教育会議」を設置して、昨年度に、まず取り組むべき事項となる「大磯町教育大綱」を、皆さんと協議を重ねさせていただくことで、昨年 11 月に策定しました。

この教育大綱は、基本理念を「『いのち』、『こころ』、自らの可能性を求め、新しい時代を心豊かに生きる人づくり」として、基本理念を実現する方向性となる基本目標に「知力、体力、共感力」といたしました。そして、基本目標の実現に向けた取り組みや方向性となる基本方針に「子育て、幼児教育、学校教育、生涯学習、教育環境整備」の 5 つを柱に掲げ、平成 30 年度までの 3 年間、この大綱に基づき、町の教育振興を推し進めているところであります。

私は、この教育大綱に掲げる基本理念である「いのち」、「こころ」を輝かせる教育を進めていくために、学校や教員が、児童生徒と真っ直ぐに向き合い「学校の教育力を向上」するための取り組みは勿論のこと、学校の力だけではなく、家庭や地域も含め、町全体が一体となり取り組みを進めていかねばならないと痛感しています。

そのためには、学校、家庭、地域がそれぞれ連携のもと、「信頼関係」を築きあげていかなければ、実現できないものであると思っていますので、本日は、皆さんと、「信頼関係による学校づくりの実現」をテーマに、町が進めていく方向性や具体的取り組み事項などについて、今、町や学校が抱えている課題や問題点などへのお考え等もお聞かせいただきながら、協議していきたいと思っていますので、よろしくお願いたします。

なお、当会議は、私が議長となり、進行もさせていただくことになってはいますが、今回のテーマを皆さんと協議させていただくにあたっては、特別に、私が進行も兼ねながら、自分の意見や考え等を述べさせていただくのではなく、進行役を別に事務局から立てさせていただき、協議を行っていきたいと思っていますので、どうぞ、皆さん、ご理解、ご協

力の程、よろしく申し上げます。

政策係長) それでは、これから協議事項に入らせていただきますが、先ほど、町長から挨拶の中で提案がありましたが、協議事項(1)「信頼関係による学校づくりの実現について」は、議長となる町長が進行役も兼ねて、ご意見やお考え等をご発言する形式ではなく、別に事務局から地域総合戦略担当参事を進行役として、協議を進めさせていただきたいと思っております。

それでは、森田参事、よろしく申し上げます。

【協議事項(1) 信頼関係による学校づくりの実現について】

参事) 進行役を務めさせていただきます地域総合戦略担当参事の森田でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、これより、協議事項(1)「信頼関係による学校づくりの実現について」に入らせていただきます。

先ほど、町長の挨拶の中でもお話がありましたが、昨年4月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、新たな教育委員会制度がスタートして、「大磯町総合教育会議」を設置し、昨年11月に皆さんにご協議していただき「大磯町教育大綱」が策定されました。

本日は、この教育大綱に掲げております基本理念「いのち」、「こころ」を輝かせる教育を進めていくため、学校だけではなく、家庭や地域も含め、町全体で「大磯らしい」教育を進めていくための取組み、また、学校、教員が児童生徒と向き合い、「学校の教育力を向上」するための取組みなど、「信頼関係による学校づくりの実現」をテーマに、皆さんから、町が進めていく取組み事項などについてご協議いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、事務局から「学校を取り巻く環境」や「教育に関する国の動き等」について、簡単に資料を用意させていただきましたので、説明させていただき、その後、皆さんからお考え等を伺わせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

政策課長) それでは、資料に基づき、説明させていただきます。パワーポイントで説明をさせていただきます。

昨年策定いたしました「大磯町教育大綱」では、大磯の子どもたちが、かけがえのない「いのち」を大切に、自らの可能性を求め、新しい時代を「こころ」豊かに生きる人づくりを目指し、基本理念に「いのち」、「こころ」を掲げています。そして、学校などの各教育現場において、この基本理念である「いのち」、「こころ」を輝かせる教育を進めていくためには、教員が子どもたちと接し、向き合うことが、たいへん重要であると認識しています。

しかしながら、現在の、学校を取り巻く環境は、「核家族化の進展」や、「共働き世帯の

増加」などの影響もあるかとは思いますが、家庭や地域社会における教育力の低下に伴う「学校や教員に対する学校教育への期待の高まり」、また、「教員が子どもたちではなく、保護者やPTA、地域活動などに対する対応時間や頻度が増加傾向にあること」、さらには、「いじめや不登校をはじめとする、複雑・多様化する課題などに対する学習指導や生徒指導への携わり」など、「教員が児童生徒と向き合い、指導する時間や、授業の事前準備の確保が十分でない」といった状況があります。

その一方で、大量採用期、いわゆる団塊の世代の教員が退職期を迎えることで、ベテラン教員の大幅な減少により、教員の年齢構成に不均衡が生じ、教員の経験不足を補うための指導力や能力向上に向け、「中堅・若手教員の育成が急務である」といった状況もあります。

このような学校や教員を取り巻く環境は、大磯町の小中学校だけでなく、全国的にも同じような状況にあります。そのため、国においても、このような状況の解消・改善に向けまして、文部科学省では、「コミュニティ・スクールの推進」、「専門性を生かすチーム体制の構築」、「10年経験者研修や初任者研修の改革」など、学校と地域が一体となり、次世代の学校・地域の創生に取り組めるよう、『次世代の学校・地域』創生プラン～学校と地域の一体改革による地域創生～を今年の1月に策定し、更に、6月には、次世代の学校指導体制にふさわしい、教員の在り方と業務の改善に向けまして、「教員の担うべき業務に専念できる環境を確保する」、「教員の部活動における負担を大胆に軽減する」、また、「長時間労働という働き方を見直す」といった内容の、「学校現場における業務の適正化」に向けた報告書がまとめられています。

このように、学校や教員を取り巻く環境は、大きく変わろうとしています。その根底には、学校だけではなく、学校と家庭や地域が一体となり、大磯町の教育大綱の基本方針にも掲げています「保護者や地域に信頼される、開かれた学校づくり」をどのように実現していくか、また、「学校」、「家庭」、「地域」の3つの輪の重なり合った中心にある『信頼関係』をいかに築きあげ、学校の教育力を向上させていくか、ということがあると思います。

そこで、本日は、大磯町における「信頼関係による学校づくりの実現」をテーマに、皆さんに協議いただければと思います。

説明は以上です。よろしくお願いたします。

参事) 事務局から説明がありましたが、皆さんから、まずは、それぞれのお立場で、これまで様々な事案への対応、また、小中学校等の教育現場を訪れ、教員の方々などとの懇談などにより得た経験などから、大磯町の学校教育における課題や問題点等について、どのように捉えているのか等について、ご発言をいただきたいと思います。

曾田委員) 団塊の世代という言葉が出てきましたので、団塊の世代の私から日頃考えていることを申し上げたいと思います。戦後ずっとと言われております団塊の世代、おおよそ昭和22

年から 25 年生まれが団塊の世代と言われていますが、私も団塊の世代のひとりでありまして、この世代の教員の方々の多くがここ数年で退職を迎えています。教育現場を見ると大きな混乱はないように思われますが、価値観の多様化が見られる中で、新しい意味での課題、予測不可能な課題が見受けられるようになってきていると感じています。これは教育現場におけるベテラン教員と若手教員との年齢格差が生じてきていると考えています。

その一方で、保護者の方の世代も大きく変わってきています。私の子どもを見てもそうですが、「ゲームボーイで育った世代」が小学校もしくは中学校前半の子どもたちの親となっています。また、幼稚園、保育園においては、いわゆる「ゆとり教育」の世代が保護者となっていると思います。さらに、これらの保護者たちは不景気の時代しか経験のない「さとり時代」に育っています。これから結婚し、教育の世界に入って来られる方もいると思います。このように、いろいろな世代に育った方が保護者になられています。

そして、私たちも巻き込まれている「SNS時代」が急速に到来しています。世界で10億人以上の方が、ツイッターやフェイスブックなどを利用して情報過多の時代になっており、昔とは社会の状況が変化しています。そういった中で、多くの保護者や子どもたちを抱え、教員の立場もあると思いますが、学校はどういった役割を果たしていかなければならないのか。

私が今、いちばん気になっているのは、大磯町の学校現場、教育現場の状況がどうなっているのかということです。日ごろ、教育委員会定例会の後の学校訪問などにおいて、先生方などいろいろな意見交換をしていますが、もっと鋭く見ていく必要があると感じています。そのような視点から、大きく3点について考えてみたいと思います。

1つ目は、危機管理の重要性とその強化ということです。今の先生方は非常に忙しい状況にあります。そういった中で、事件や事故、災害などに十分に対応することができているのか。これには地域との連携ということも関係してまいります。

2つ目は、教員が保護者の悩みにどのように対処しているのか。また、どのように対処できているのか。学校ですので、事件や事故などいろいろな相談があると思いますが、それに若い先生が対応することができるのか。ベテランの先生がいなくなると、どのように対応していくのか。このようなことが非常に重要になってくると思っています。

3つ目は、学校の先生の間で、世代間の格差が生じていますが、この格差をどのようにしたら無くすことができるのか。先生方は様々な専門分野をお持ちだと思います。学校での教育には「専門教育」と「人間教育」が必要であると思いますが、現在は「人間教育」をアドバイスできる教員が多くはないのではないかと感じています。教員が受けている研修などは、教科を指導するテクニックは教わることはできても、人間教育を重要視して教わるチャンスは果たしてあるのか無いのかということも重要だと感じています。すなわち、教員を育成するための研修が急務であると考えています。専門教育の研修は行われていますが、人間教育への取組みが国においても少し遅れているのではないかと感じています。

中野教育長職務代理) 学校訪問などをする中で、教員や保護者から様々な意見を聴いています。

その中から話をさせていただきます。

まず、学校に関してですが、大磯町の学校は開かれた学校という特徴のある姿勢をとっていると思っています。これは、いつでも学校に足を運んで授業を見たり、先生方と話をすることができるという非常に素晴らしい関係にあると思っています。

また、私も様々な世代の保護者がいることを感じています。上級生と下級生の子どもを持つ保護者がいたり、世代間のギャップを感じることもあります。ボランティアやPTAなどに参加すると非常に世代間の差を感じます。

もう1つは、地域の方々から伺った話ですが、先生方が忙しくて夜遅くまで校舎の明かりが点いていることに対して、「なぜ先生は早く帰らないのか」ということを言われたことがあります。

そのような点を課題にしたいと考えています。

青山委員) 本日のテーマが、「信頼関係による学校づくりの実現」ということですが、信頼される学校には何が必要なのかということを考えてみますと、そこには「信頼される人」が必要であり、「しっかりとした人格がある方」、「自信を持って児童生徒を指導できる人材」が求められると思います。

教育委員として、何度も学校訪問をさせていただき感じることは、各校長先生をトップとして教員の皆さんがしっかりと意識を持って児童生徒を指導されていることを強く感じています。

では、本日のテーマの問題点は何であるかといいますと、先生方の労働時間が長くなっていて、子どもたちと向き合う時間が減ってきているという部分で、先生方の仕事量が増加している。実際、懇談会で先生方とお話するときも、事務処理が増えてきており、子どもに関わる仕事以外のものが増えてきていて時間がないという話を、直に聴く機会が数多くありました。そして、夜遅くまで学校の電気が付いているということからも残業が増えていることも分かります。しかし、このような事務量が増えている状況を先生方のお互いの協力と残業によって何とか支えているというように理解しています。

このように先生方の仕事量が増えてきていることが問題であると思います。そして、その増えてきている仕事は具体的にどのような仕事なのか、なぜ遅くまで学校に明かりが点いていなければならないのかということ、できれば具体的にどのような事案があるのか後ほど事務局に伺いたいと思っています。

濱名委員) 教育委員の皆さんとは一緒に学校訪問をしているので、同じような課題が見えてきているのではないかと感じています。私は、東京にある講道館や自宅に備える道場で、子どもたちに柔道を通して人間教育における指導をしています。大磯町の教育との関わりは、幼稚園と保育園での体操教室の講師や中学校の柔道の授業でのお手伝い、また、娘2人が町立の幼稚園に通っていたこともあり、大磯町と関わりを持つことになりました。そして、教育委員としての新たな責任が加わり、学校訪問で学校へ伺ったり、保護者から相談を受

けることで、問題や課題を共有して解決に向けて話し合い、意見交換ができることに感謝しています。

学校における問題点については、皆さんの意見にプラスしまして、国からの動きに対して学校もしっかりと研修・研究を行い、公開授業をして、先生方はプライドを持って対応していることは理解しています。その中でも、教員の質を高めることに重きを置きたいと思っています。私自身の子ども時代を振り返りまして、良い先生が担任だと授業が楽しく受けることができましたし、苦手で対応が難しかった先生の際は前向きに勉強ができなかったと感じています。そのような子どもたちの対応によって保護者たちも学校に対してクレームを出したりしているのではないかと考えています。そういった点で、教員の質を高めること、スキルアップに重きを置きたいと思います。

教育長) ただ今、教育委員の皆さんから様々なご意見をいただきました。先日、ある小学校の授業参観に参加しました。その時に、施設面に課題があるので子どもたちが落ち着かないということが話題となりました。このことは教育委員会だけではなく、議会等でも話題となっているところです。暫くは、学校の意見を聴きながら取り組んでまいりましたので、十分とは言えませんが、かなり落ち着いてきています。落ち着いてきた理由には、「学級編制の仕方を変えていく」、「学級担任制から教科担任制へ切り替えていく」、「新学習指導要領の取組みを増やしていく」、また、「チームによる取組みを増やしていく」といった「人」の問題で対応してきており、かなりの落ち着きを見せています。

まだ課題はあると思いますが、やはり、「物」ではなく、「人」の問題としても考えられる。このことから課題解決の糸口が見えてくるのではないかと感じています。

また、なぜ先生は忙しいのか。いろいろな課題はあると思います。例えば、様々な報道がされていますが、よく耳にするのは、部活動やその部活動の試合への引率、多様化している保護者への対応や家庭訪問、また、子どもたちを指導する上での会議の開催、或いは、様々な調査への回答や報告書の作成など、これらが先生の仕事の増加に繋がっていると聞いており、これらが現状であると考えています。

町長) 私は教育委員の方とは違って、先生と直接話をする機会がありません。学校を訪れる機会としては、最近では、中学校給食の現場に一週間ほど訪れました。運動会にも参加しています。時々ではありますが授業参観にも参加しまして、先生方と話をすることはあります。本日も学校の先生がお見えになっているとは思いますが、私も曾田教育委員も団塊の世代でありまして、先生は偉くて怖いものだと思っていました。しかし、現在の児童や生徒は非常に自由に発言します。また、いろいろな学校での問題の中で、先生が困ってしまうような保護者からの問題提起も多いように思います。それらの問題に対してどのように対処していくかを考えていくことで、推測ではありますが解決することができると思っています。

本日、私たちが考えていかねばならないことは、信頼関係を構築していかなければならない

ということであります。これらの問題を具体的に解決していくためには、先ほど青山委員からも具体的な事案を事務局から提示してほしいとのご意見がありましたが、そのような事案を例として出しながら、この総合教育会議で協議し、その協議の結果がひとつの核となり、広がっていくことではないでしょうか。やはり、現実的な話をしていかねばなりません。

先生方が忙しいことは認識しています。町では水曜日に残業をしないというノー残業デー、また、金曜日にはできるだけ残業をしないという積極的ノー残業デーを実施しています。しかし、教育委員会では業務量が多く、守られていない。中学校給食の問題、その他にも小学校、中学校には様々な問題があり、それらの問題が解決されずに来てしまっています。教育委員会は、その現実をしっかりと捉え、また、学校の先生においても、教育委員が学校訪問をする際には、遠慮なく話をしていただき、各論としてそれらの課題を抽出してほしいと思います。そして、学校、家庭、地域が一体となり信頼関係を持って取り組んでいくことに尽きると思います。一つひとつ問題点を出して解決していただきたい。そして、明確に見えるような信頼関係を築いていただきたい。これは教育委員会、教育委員の皆さんへの私からのお願いです。

参事) どうもありがとうございました。

皆さんから、大磯町の学校教育における課題や問題点、また、教育現場や教員に係わる課題点等について、危機管理や学校体制における問題点など、大きな視点からの組織体制を構築していく必要性、また、教員の多忙化していることに対して何らかの対応が必要である。そして、教員自体の質を高める、スキルアップが必要である。また、ソフト面だけでなくハード面と一体として考えていく必要がある。さらに、何が問題であるのかという原因を的確に捉え、それを解明して解決へと結び付ける必要性があるというような、様々な観点からご意見等をいただきました。

それでは、次に、その課題や問題点等に対し、「信頼関係を構築していくためには」という観点で、「地域や保護者等側の視点」から見た、取組みが必要と思われる点、不足していると感じる点、改善すべき点、また、進むべき方向性や具体的な取組み事項等について、お考え等をお聞かせいただきたいと思います。

曾田委員) 大磯町では、比較的、お爺さんやお婆さんと一緒に住んでいたり、近くに住んでいる世帯が多いと思います。しかし、大方の場合は核家族化が進んでおり、若いお父さんやお母さんは相談したくても身近に相談する人がいなくて困っている方が多くいます。そうすると、いちばん近くに存在するのが学校の先生ということになりますが、学校の先生は自分たちよりも若い。そうすると、果たして相談できるのかという悩みを抱えているのではないのでしょうか。

それを解決するには、学校の先生は保護者とどう向き合っていくのか、どう向き合っているのかということ、もう一度明確にしておかなければならないと思って

います。

まず、教員が分かる言葉で話をしているのか。子どもたちに対しては、研修も受けられているし、子どもたちを熱心に指導する現場も見ていますが、保護者との対応については目にする機会がありません。

次に、自分が伝えたいことを、意見交換の中で伝えられているのか。保護者とのトラブルの中で伝えられていないのではないのか。また、伝えようと努力しているのか。伝える力があるのか。

共に悩み、共に考える力をお互いに共有できているのか。これらは、非常に大事なことであると思います。簡単ですけれども中々できないことでもあります。

日ごろの子どもたちへの対応も含めて、人によって、保護者によって態度を変えていないか。中々素直になれない教員もいるとは思いますが、そのようなことができているのか。

それから、先生の熱意が保護者に伝わっているのか。このことも非常に大事であります。

そして、お互いに良いアドバイスができているのか、保護者に納得していただいているかということが、いちばん大切であると思います。

若い先生は、学校の職場しか知らないのか、どこまでその力が発揮できるのか。そのようなことをベテランの先生たちがアドバイスできるような体制が、早急に構築できれば良いと感じています。そういった心構えと対応が今後の教育現場に必要であり、そのための研修なども必要になってくるのではないのでしょうか。そうすると、また忙しいということになってしまいますが、これは急務であり、いち早い問題解決に繋がるというのが私の意見です。

町長) 大磯町教育大綱の基本方針に掲げる「開かれた学校づくり」に向けて、相談体制をどのように構築していくかということは非常に重要な問題であると思います。教科を教えることは教員でないと中々難しいことではありますが、今の教員が心を砕いていることは子どもたちに教科を教えることではなく、保護者や地域への対応が大きく、重い問題になっています。若い先生方の経験という面もありますが、私たちはこれらの対応について既にラインアップはしています。例えば、開かれた学校づくりに対しては、「地域コーディネーター」や「学校支援ボランティアサポート」という制度もあります。また、「チーム学校」も推進しています。実際、これを運用しているかどうかということになる訳ですが、町全体で信頼関係のもとに地域と一緒に、学校教育に取り組んでいかねばなりません。子どもたちが勉強に専念できる体制を作っていかなければなりません。先生方が尊敬される、子どもたちとの師弟関係が大切だと思います。古い考えかもしれませんが、今の教員と子どもたちの距離があまりにも近すぎる感があり、良い面もありますが、いざというときに先生と子どもたちとの人間関係、信頼関係というものが構築され、教員というものは、心の中でトップにあるべきであると思っています。時間を掛けて、そのような信頼関係を築いていく必要があると考えています。そのために、教育委員会にはしっかりと取り組んでいただきたい。例えば、危機管理という面では、相談に対しては初期対応が大切であり、

数年間、行政を経験しまして、初期対応をいかにすべきかということが大きな問題であり、時間をいたずらに掛けてはなりません。しかるべき人がしかるべき対応をする。対応する人、順番を明確にしながら、そのようなシステムを作っていくことが大切であると思っています。

中野教育長職務代理) 開かれた学校づくりについて、いつでも学校を訪れることができるという面で、大磯町はある程度できていると思っています。そういったチャンスがあるにも拘わらず、保護者はあまり学校に行っていないのではないかという気がします。学校に対する誤解や先生方がどれくらい忙しいのか、たいへんなのかということを理解できていない部分もあり、実際に誤解しているというケースも目にしています。せつかくこのような機会があるので、チーム学校というか、保護者や地域の方が学校を支えていくためには、具体的にどうしたらいいのかということを課題として挙げたいと思います。

国際理解という授業がありまして、地域の方々の力を借りて子どもたちに授業を行う機会があるのですが、たくさんの方に集まっていただき、熱心に指導していただいています。地域の方も保護者の方も、学校を助けたいという気持ちは無い訳ではないと思っています。

町長) その授業での取組みが、具体的に生かされていると思っていますか。

中野教育長職務代理) 私は、大磯小学校での取組みを話しています。国府小学校のことは分かりませんが、もう少しシステムティックに体制を整えていったら、もっと素晴らしいことが実現できるのではないかと感じています。できているとは言い難いですが、基礎はできていると思います。

町長) 先ほど私が申し上げましたシステムはできている。それを誰がどのように実践していくかというものを、次にステップとして作っていかねばなりません。先ほど教育委員会に実施していただきたいと言ったのは、正にこのことです。

教育長) 学校にニーズがあって、そこに地域の教育力が加わってくるときはうまくいきます。しかし、逆の場合、地域や保護者からのニーズや提案となると、学校のカリキュラムは決まっておりで時間で動いているため、1時間追加すると何か1時間を削らなければならないという問題が生じる可能性があります。そのため、学校や家庭教育、地域の教育の特色をお互いに理解してスタートすることが、とても大事だと思います。信頼関係づくりには理解し合うことが大切だと思います。例えば、ガイドボランティアに関しては、先生方と子どもたちのニーズに合わせてガイドボランティアに入らせていただいている。町長が先ほど言われたコーディネーターが間に入るとスムーズに調整できます。これから検討を進める方向性としては良いと思います。

青山委員) 地域の気持ちと学校の気持ちをどうバランスを取って、子どもたちにとってベストなものを生み出していくのか。そのために、地域のコーディネーターが必要であるという話が出ました。

話をテーマの学校との信頼関係に戻しまして、地域や保護者から見てどのように学校が映っているのかということをお話させていただきます。今までの学校訪問や、それ以外でも、私が地域の子どもの見守りボランティアをしていますので、教育委員以外の部分でも学校に行ったり、地域の集まりに参加する中で感じることがあります。若い先生が多くなってきており、地域の方々よりも年下の先生が多くなっています。そうした中で、「担任を持ってうまくできるのかね」であるとか「いろいろな保護者がいるから対応がたいへんだね」といった声を聴く機会がよくあります。若いイコール経験不足という思いはあると思います。そして、先生方の年齢の不均衡が保護者の不安の原因のひとつになっていますが、その「不安」が「不信」に繋がらないようにしなければいけません。確かに若い教員が経験不足であることは事実ですし、ベテランになれば、その経験からいろいろな問題に対応できるようになり、それが正しい方向性でできてくる。若い先生の経験不足を補うためには、資質の向上が必要であり、また、若い先生をサポートする体制を充実する必要があると感じています。

濱名委員) 学校の問題と、柔道界の問題は似ているところが多いと思っています。町長が言われるとおり、初期対応は非常に大切であると思います。失礼ですが、学校の対応を見ているとノラリクラリとした対応を繰り返しているように見えますし、保護者のクレームの熱が冷めるのを待っているのだらうと思わせるような態度が見受けられます。学校でも「できること」は「できる」と言うことはできると思いますし、それをはっきりと伝え、「できない」のであれば理由を付けて「できない」ことを伝えなければ、お互いの気持ちを理解することはできないと感じています。

子育てをしていて思うことがあるのですが、子どもには「やりたいことにはチャレンジしなさい」とは言うものの、何かありますと親の責任が叫ばれますし、親としては「子どもが何か起こさないか」と過保護な状況になり、危険を除去しようとしてしまいます。そういったことから、「失敗から学べる空間」として学校を求めています。しかし、学校で失敗したことをいけないことであると抑えつけると、またそれが問題として発展することもあります。学校教育では、集団の中で生活していくために必要な術を身に付けさせることが大切であり、そこで誤ると保護者との関係が崩れてしまいます。

また、教員の使命感に関してですが、私たち指導者は尊敬されることを必要とする職であり、それに向けて日々努力、研究をしています。先生のスキルアップは非常に大切です。娘が小学校高学年の時に、登校班の班長をしていました。そこで一緒に通学をしている低学年の子がサンダルで登校していることに気づきました。今日は体育の授業があるのでサンダルでは授業に参加できないので、娘がその子家に戻り、サンダルと靴を交換し、時間ギリギリで遅刻したことがありました。そこに立っていた校長先生は叱らずに理由を聞

いてくれて、「たいへんだったね」と声を掛けてくれたことがありました。そういう先生がいる一方で、理由も聞かず叱る先生もいます。その違いは、先生の「うつわ」だと感じたことがあります。

教育長) パワーポイント7ページの「学校」、「家庭」、「地域」の輪は、重なり合った「信頼」と書かれた部分で子どもたちを育てて行こうという理想であると思います。しかし、「家庭」と「地域」が重なっていない状態の話をよく聴きます。例えば、子ども会への参加が少ないとか、地域で子ども同士が遊んでいないとか、そういう現実があると思います。また、そのことが教員の多忙化にも繋がっています。こういった中でどういった問題があるかといいますと、スマホの使い方の問題、よく地域の方々から指摘される自転車の乗り方の問題があります。これらの問題には、学校で指導するよう要望があります。信頼関係というのは、お互いが違った役割を担うという前提に立たないと、本来自分たちがやらねばならない役割を見失ってしまいます。お互い足りないものを補う、例えば、スマホの場合は、ある学級で保護者の提案で、午後10時から午前6時まで使うことを禁止することを取り決めたとします。そこで保護者が問題を共有できれば、その学級はうまくいきます。こういった小さな積み重ねが学校全体に広がり、地域に広がっていかないと、教育委員会が言っても効果がありません。開かれた学校というより、むしろ、学校と家庭、学校と地域の信頼関係を築くことが、学校を開くことになるのではないかと思います。開かれた学校は最初からあるのではなく、学校を開くという視点が、先生方にも備わっていなければならないと感じています。

また、先ほど青山委員からお話が合った、若い先生の件ですが、若い先生はどちらかというとマイナスイメージに捉えられています。しかし、体育の実技指導のように、若い教員だからできることもあります。そのように若さをマイナスイメージだけで捉えるのではなく、プラスイメージとして捉えることも私たちとしては持ってあげたいと思います。

町長) 今、教育長は教育の多様性をおっしゃられた。スマホに関しては、信頼関係の構築についておっしゃられた。それをどのようにしていくのか、学校側からどのように発信していくのか話していただきたい。

教育長) スマホの件ですが、ある学級懇談会の中で、保護者の相談を担当が受け止めて学級に投げ掛けます。児童生徒が隣の学級と繋がっていれば、自分の学級だけでは解決できないので学年全体で、上級生と繋がっていれば学校全体で検討します。学校の外の塾で繋がっているケースもあります。そういった場合は、その広がりをみんなで問題として共有することで、解決の方策が見出されてくるのではないのか。学校の指示や命令で解決できるものではないと考えています。

町長) 問題によってはそうだと思います。先ほどから話に出ております開かれた学校づくり、

また教育委員の皆さんから出ておりますボランティア、コーディネーター、相談体制、チーム学校など、現実に実行できる形を教育委員会には作っていただきたいと思っています。

濱名委員) 非常に穿った見方をしているかもしれませんが、学校というのは社会に通用する人間を作り出すところという考えから、どのような人間が社会に通用する人間なのか、社会ではどのような人間が求められているのか。「上司の命令をよく聴く、言われたことを忠実に実行する、口ごたえをしない。自分の意見を封印して、会社の意向を理解して、不満があっても我慢して、働いてくれたら会社としては都合が良い。集団生活を優先して、何も考えずに黙って従う人間」なのでしょうか。このような人間を目指したら、考えて実行する子どもは育っていきません。

午後10時以降はメールやラインを、なぜやってはいけないのかということ、子どもたちに考えさせて、子どもたちに答えを導かせて、自分たちでルールを作らせれば、そのルールは定着すると思います。上から指示を与えるだけではなく、自分たちで考えさせるように、先生方には指導していただきたいと思っています。

参事) どうもありがとうございました。

ただ今、皆さんから開かれた学校づくりのために、学校や地域が何かを行うためには、信頼関係のもとに進めていかなければならないというご意見をいただきました。そして、取組みを進めるに当たっては、地域資源である「人」を活用して開かれた学校づくりを進めていかなければならない。また、若い教員が多くなる中で、保護者と向き合うためにはどうしたらよいのか。話し方や聴く力を高めていくことで、保護者や地域との共通理解が生まれていく。そういったことが信頼関係に結び付いていく。具体的には、資質向上や能力向上のための研修の実施や、サポートできる体制づくりが必要であるとのお話をいただきました。

先ほど、教員の仕事量が多くなり忙しさが増しているとのお話もいただいているところですが、次は、大磯町の学校教育における課題や問題点等に対し、「学校や教員側の視点」から見た中での「信頼関係を構築」するための取組みが必要と思われる点、不足していると感じる点、改善すべき点、また、進むべき方向性や具体的な取組み事項等について、お考え等をお聞かせいただきたいと思っています。

教育長) 曾田委員からもお話がありましたが、先生をどのように育てていくか。この問題は大きいと思います。指導技術だけではなく、コミュニケーション能力と言いますか、対話する能力、向き合って話ができる能力を身に着けさせる研修が必要であると感じています。

そして、保護者や地域の方々との対応に関しては、それぞれに対応力が求められますが、かなり専門的な知識が必要となるケースもあり、そういった意味では、現在設置されているスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに出してもらおう。また、看護師や弁護士を設置している学校もあります。様々なニーズに対応するためには、担任の教員ひと

りでは対応することができないので、学校全体で取り組んでいく必要がありますが、専門職も必要です。それを制度的に構築できるかという問題も課題としてあります。

また、最近では、国において「開かれたカリキュラム」を作ろうという動きがあります。つまり、地域のニーズや、地域の特色、歴史や文化を取り入れたカリキュラムを作っていくという方向性が示されており、今後、検討が必要であると思っています。

以前、曾田委員が「子どもたちは自分の町に誇りを持っているのか」という話をされたことがあります。地域の人から学ぶということは、地域を学ぶ、或いは、地域で学ぶことであり、時間的には厳しいところがありますが、そういったカリキュラムを作っていくことが学校の役割として求められていることであると思います。

濱名委員) 教員が若いなどという様々な問題に対しては、「一生懸命やればいい」の一言に尽きると思います。私も相談を受ければ、とにかく「一生懸命やればいい」と指導しています。その人がどのような問題を抱えているか分からないので、その言葉に尽きると思います。

地域と学校との関係に関しては、今は数年前よりも、ずいぶんと学校側も地域を受け入れるようになってきています。数年前は、(柔道で)全国大会で準優勝したと報告しても、学校とは関係ないと追いつ返されたことがあります。しかし、今では学校も子どもたちを認めて応援してくれており、ここ数年で学校と地域との信頼関係が築けていると感じています。

曾田委員) 自分の身は自分で守るという時代が到来しています。その中で、大磯町は子どもたちや保護者に夢や希望を与えられているのでしょうか。これは簡単に答えが出せるものではありません。しかし、この町に住んでいる保護者の皆さんや子どもたちにひとつ聴いてみたいことがあります。「この大磯町を誇りに思いますか。この大磯町に住んでいて幸せですか。」もうひとつは、「この大磯町に住んでいて安全ですか、心配ないですか。安心して住むことができますか。大磯町の未来に自信が持てますか、ずっと住んでいたい町ですか。」ということ、子どもたちや住んでいる方々に聴いてみたい。そして、大磯町にはたくさん良いところがありますが、それらが果たして若者たちに共感を与えるものであると言えるのか。これはどういうことかと言いますと、今の日本は、欲しい物は大体揃いますが、私は無い物がふたつあると考えています。それは「夢」と「希望」だと思っています。この「夢」と「希望」が大磯町の教育の中に課題であれ何であれ、存在していなければならないと思っています。

町の活性化に関しましては、私は大磯町民ではありませんが、この町で感心していることは、運動会や様々な行事が町で行われていますが、学校、家庭、地域が一体となって取り組んでいることです。特に、高麗の山神輿では、東海大学の学生が参加していますが、参加した学生たちが、自分の町のように喜んでくれています。私も学生を連れてきて良かったと喜びを感じています。大磯町では、このようなことが各所で行われています。

大磯町は、素晴らしい歴史や文化がある中で、もうひとつ何かを行いたいが見つけられ

ないで困っているように感じていますが、この町を観光の町にして地域一体で取り組むことができる広がりを持っていると思いますし、それが十分にできる町であり、もっと磨きを掛けることができるのではないのかと感じています。できることは協力していきたいとも思っています。現に、町内各所で、若い人から高齢者までが一体となり行事に取り組んでいます。わずか 33,000 人の町ですが、生き生きした町だと思っています。ぜひ、皆さんの力で「夢」と「希望」のある町に繋げていければと考えています。信頼関係がなければ、このような行事はできないと思っています。

青山委員) 学校が保護者や地域から信頼を得るためには、その根本には先生と子ども、学校と子どもの信頼関係がしっかり築かれていれば、保護者が学校を信頼し、もちろん地域も学校を信頼することに繋がるのではないかと考えています。その核にあるのは、先生方と子どもたちとの信頼関係であり、この関係をもっと良くしていく必要があります。多くの場合は問題ないと思いますが、稀に問題が生じてくることもあります。

学校や教員の視点から見てということで話をさせていただきますが、学校に伺って先生方の話を聴いたり、実際に授業参観を見た様子を私のフィルターを通しての話になりますが、やはり大切なのは先生方と子どもたちの信頼関係であり、パワーポイントの 3 ページにあります「教員が児童生徒と向き合い指導する時間や授業の事前準備の確保が十分でない」ということに問題があると思います。先生方の本来の仕事以外で荷重になっている部分を敬遠する取組みを、今後、会議の中で具体的に意見を交わす必要があると考えています。

そして、教員の資質の向上、人間を磨くという話がありましたが、そのためには研修が必要であると同時に、そのための時間が教員の皆さんには必要になってきます。その時間という問題が出てきますと、先ほど申し上げました仕事以外で荷重となっている部分を減らして、自分たちの資質の向上に充てる時間、また、子どもたちと向き合う時間を作っていかなければならない。その時間を作るためには、どのような取組みが必要なのかという課題はあると思いますが、例えば、事務処理が増えているのであれば、それを改善する必要がある。或いは、ICT の活用という言葉をよく耳にしますが、子どもたちの学習指導への活用だけではなく、教員の業務に活用することで、今の状況が改善できるのであれば考えていくことが求められるのではないかと感じています。

中野教育長職務代理) 先生方が忙しくて時間がない状況を、どのように改善していくかということを経済委員会でも考えていかなければなりません。そのために、事務処理は専門家に任せる。また、部活動の引率はそれが可能な人材に託すといった方法があると思いますが、事故があった場合の責任の所在など心配な点もあるので、諸手を挙げて賛成はし兼ねますが、そのような方法もあると思います。

また、若い先生に関しては経験が不足していると言われがちですが、今は就職難で就職することがたいへんな状況にあるようで、若い先生の中には、一般企業の就職活動をした

方も多く、若い先生方は対話力を持っています。そのため、若い教員の方が子どもたちの信頼を勝ち取りやすいということもあります。一般企業とは違い、就職してすぐに先生と呼ばれ、ひとつのクラスを担当することは非常にプレッシャーが掛かることだと思いますが、それを淡々と熟している若い先生は多いという感じがしています。その若い先生のやり方を学ぶという器量を他の先生にも持っていただきたいし、それこそチーム学校として、先生同士が分け隔てなくお互いを認め合い、フォローし合うことが、保護者や地域との信頼関係を築くことにも繋がるのではないかと感じています。

町長) 教育長をはじめ、教育委員の皆さんに様々なご意見をいただきました。パワーポイント7ページにある「学校」、「家庭」、「地域」の輪の重なり合う部分に示す「信頼」をどのように構築していくか。先生と子どもたちが仲良く信頼し合っていれば問題は少なくなる。それは確かなことです。いちばん簡単なことは、小さな問題が起きた時に、それをどう処理していくか。冒頭で危機管理の話がありました。問題が起きた時は、小さいうちにいち早く皆さんで話し合っ解決していく。それを実現していただきたい。

また、この町の誇りを子どもたちはどのように感じているのか。聴くことが怖い面もありますが、大人へのまちづくりのアンケート調査では、「自然」や「文化」を大磯町に求めています。そういった大人を見て育った子どもたちも同様であると思いますが、そこにこの町の新しい要素として「教育」が選ばれるように努力していかなければなりません。そのためには、先生方には一歩、二歩と踏み込んで、子どもたちに信頼される凛とした先生になっていただきたい。それには、先生方に時間が必要ですので、町としてできることをひとつ、ふたつと、教育委員会から話をいただきながら進めていきたいと考えています。

参事) どうもありがとうございました。

それでは、これまでの皆さんのご意見を総括しまして、他にご発言があればお願いいたします。

青山委員) 冒頭に、教員の現状を事務局から聴かせていただけたらと申し上げましたが、この先、総合教育会議の中で本日の話を踏まえて、具体的な話が進んでいくかもしれませんので、その材料としても大磯町の教員の現状を具体的に聴けたらと思っています。

私は本日、主に話したことは、教員にもう少し時間を持ってもらいたいということです。その理由は、部活動や本来の授業や生徒指導以外の対応に時間が取られているという話がありました。それに対して、大磯町では具体的にどうなのかということをお聞かせいただければと思っています。

町長) ぜひとも次回の会議には出していただきたいと思います。

参事) 本日、皆さんからいただきました意見を整理させていただき、整理した内容を次に進め

ていくために、大磯町の教員が抱えている状況について、もう少し事務局から説明させていただいたうえで、次に繋げていきたいと思っています。

曾田委員) 教育大綱には、「こころ」という言葉が掲げられています。本日は、専ら「信頼関係」という言葉が使われていますが、「こころ」と「こころ」のネットワークづくりを次に繋いでいけるようにしたい。それによって「信頼」という言葉が生まれるのではないかと考えています。今は「こころ」が抜け落ちています。信頼に「こころ」はあるとは思いますが、教育大綱の基本理念は「いのち」、「こころ」です。この町で「こころ」のネットワークづくりを行っていきたくて考えています。

町長) 私は先生方と話す機会が中々ありません。教育委員会には、先生方と話ができる機会を作っていただくことをお願いしたい。そして、町と一緒に問題点を解決していく体制も作っていきたくて考えています。

参事) どうもありがとうございました。

それでは、そろそろ時間も迫ってまいりましたので、ここで、本日の協議事項は、終了させていただきたいと思っております。

本日、皆さんから「信頼関係を構築するための取組み」や、「教員が児童生徒と向き合うための取組み」、また、「教員の指導力など能力向上に向けた取組み」等について、様々な視点から方向性や具体的な方策、また、ご意見等をいただきました。

本日いただきましたご意見やご発言の内容につきましては、次回開催までに事務局で内容等を整理させていただき、次回開催時には、整理した内容に基づき、協議をさらに深めていただくことで、取組み事項を整理させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。それでは、進行を事務局にお返しします。

政策係長) 森田参事、ありがとうございました。

それでは、協議事項(1)「信頼関係による学校づくりの実現について」を終了させていただき、議長に進行役を戻させていただきます。

町長) 長時間、ありがとうございました。

町の一步踏み込んだ教育体制、先生の皆さんには本当の教員として仕事をさせていただくために、町全体がどうあるべきなのかという、真摯な具体的なご意見をいただきました。その実現に向けて、できることはしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

【その他】

町長) それでは、「4. その他」に移らせていただきます。委員の皆さんから、何かありますでしょうか。無いようでしたら、事務局から、何かあれば、お願いします。

政策課長) 最後に、事務局から、今後の予定をお知らせします。

次回の会議につきましては、11月頃を予定しております。本日の皆さんからのお考えやご意見を整理しまして、次回、改めて協議していただく予定であります。日程等の詳細につきましては、後日、改めて調整させていただきます。以上です。

政策係長) それでは、これをもちまして、平成28年度第1回大磯町総合教育会議を終了いたします。

本日は、長時間に亘り、ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

(以上)